五一新聞

08.3 No130
発行 佐藤 晴夫
0883-88-5292

昨年から、日本の社会の様々な所で、ウソがまかり通っていた事が次々と明るみに出てきた。昨年の今年の文字が「偽」と書かれたのも、まだ記憶に新しい。

そして、新しい年になっても、その流れは増々大きくなり、次々とトップニュースとなっている。アレックスカーさんが指摘「犬と鬼」の中で指摘してりに事が現実になり、この社会の基盤の脆弱さが見えてくる。

冬、雪を見ると、ひたすらテレビばかり見ていると、もうどこかへ逃げて行きたくなることばかり。

一歩、外に出れば白銀の世界。実に美しい雪の花が咲いている。

冬の花は美しいが

ぎのうまで、道路の空地に放置してある車もいたる所にあるすぎ苗も、すべておおいつくしてくれて、そんなゴミの事なんが一夜で忘れさせてくれる雪のパワー。

今まで、良くなかった祖谷の一面も、良かかせてくれる美しい景色。

そうなんです。雪景色は見るには美しいけれど、ここで生活するには少なからず困りものの雪といえます。

東北や北陸の比ではないけれど、だからこそ40～50cmの雪積があれば、さあ大変。

一人暮らしやお年寄りだけの家にすれば、道の雪かきも苦労する。一回で終わればいいけど、今年の冬のように、毎回、5～10cmずつ降り積もる。朝起きれば、また今朝も!!となってくる。

寒んでばかりいられません。

雪かきをしなければ、万一救急車といっても来られないことになってしまう。

それに雨ならば、やめばあとはきれいもの。でも雪は、何日も残ってしまうし、とけはじめると、まあの放置の車やアキ缶のうえに泥がいっぱいかかって、より一層、みにくい景色になる。

そうなんですよ。冬の花は偽の花、まるで今の日本の社会のようです。

とけはじめると、少しで、大掃除をしないと大変なことになりそうです。小さなウソはすぐ受いけど、少しぶっ重ねていくともう後にはひけなくなってしまう。

こんな米柱も

五記の写真のような氷柱もみられた。この冬、ここの家の氷柱も、生活する人がいたら、こんなに長く(1mぐらい)なるまで放置はされないでしょう。

冬に誰もいないのに並びつづけるこんなに長くなったのです。美しいでしょう。

でも生活がない場所は単に見る場所でしかないのです。

こんな場所が多くなってく現実。

どうなるのかどうしていくのか。あなたは?

それにしても、なんで、こんなにイミテーションの世界になってしまったのでしょう。

祖谷のような、田舎の村の中にまでこのビールスが蔓延している。

ミニ天下りがあり、黒字のように操作して箱物が建てられ、今、税金を次々と投入している。

いつでも安が食べられ、キュウリが冬にはいるのは、本当にいいことでしょうか。

誰かが言ったか、どこかで読んだかですが、「便利なものを手に入れると失うものがある」というのは、ほんとうにそうだとおもいます。

冬の美しい雪に囲まれていると、見えなくてもいいことまで見えて、腹だたしくなってくる。

早く山の中を歩きたいものです。